

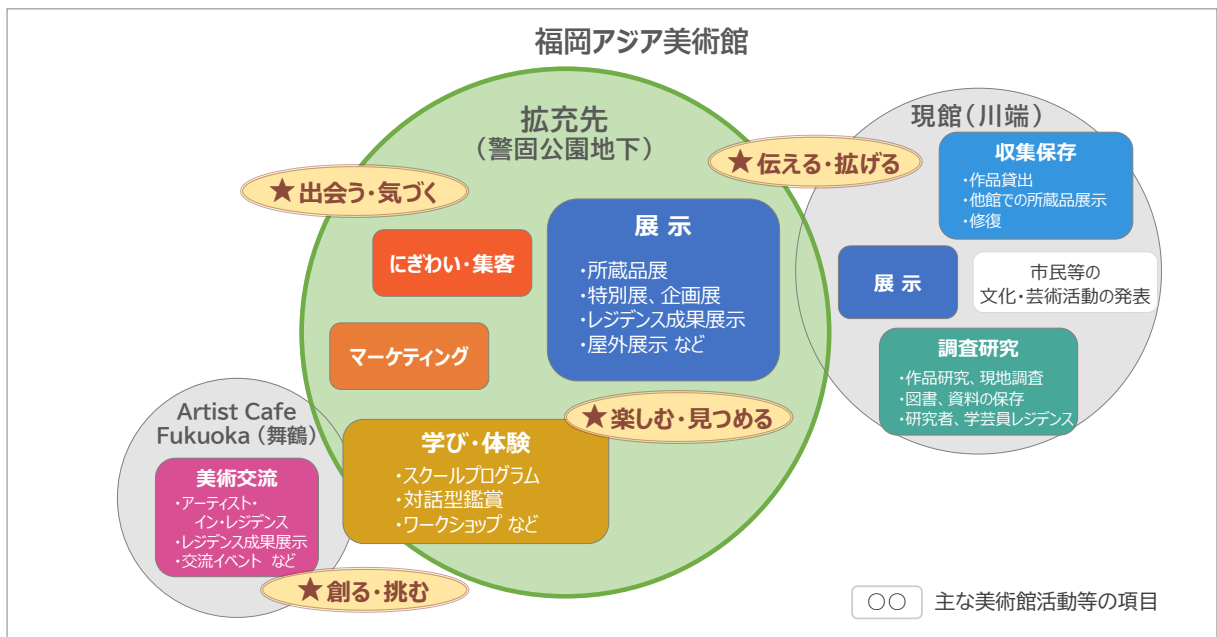
# 第4章 アジア美術館が担う機能と役割

## 第1節 アジア美術館の機能分担について

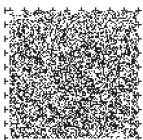
アジア美術館は、拡充先(警固公園地下)、現館(川端)、Artist Cafe Fukuoka(ACF)(舞鶴)の3拠点を連動させ、相乗効果を発揮するとともに、効果的な運営を図ります。



3拠点の役割分担イメージ



3拠点での主な美術館活動等とこれからのアジア美術館の方向性(★)の分担イメージ  
※それぞれの位置付けや役割に応じ、来館者にとってわかりやすい名称を検討していきます。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

## ○拡充先(警固公園地下)

天神の中心に位置する警固公園地下に展開し、アジア美術館の活動の中心として、アジア美術を見せる新たな発信拠点となることを目指します。

美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地良く過ごせる文化的な空間を創出し、天神の文化的魅力を一層高め、また、多彩な体験価値を昼夜提供することで、多様な来館動機を創出し、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、アジア美術と出会い、気づく場となることを目指します。

さらに、アジア美術を楽しみ、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる場を目指します。

### 【導入する主な機能】

- 展示機能

アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保する。

- 学び・体験機能

楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供する。

- にぎわい・集客機能

展示機能と一体的に展開し、多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくる。

## ○現館(川端)

博多リバレインの7階・8階に位置する現館では、これまでの活動の蓄積や現在の施設環境を活かし、収蔵、調査研究機能を拡充するとともに、拡充先での展示内容を支え、補完することで、アジア美術の魅力を広く伝え、拡げていきます。

既存の展示室等を活用し、市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場を目指します。

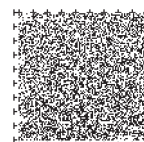
### 【拡充、継続する主な機能】

- 展示機能

既存の展示室を活かし、アジア近現代の美術作品の歴史的・文化的な背景にフォーカスした展示等を行うとともに、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行う。

- 収蔵機能

既存の空調システムや高いセキュリティを備えた設備を活用しながら、収蔵スペースを拡張し、コレクションを適切に保存・管理する。



- 調査研究機能

アジア美術の学術的評価の向上のため、収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備するなど、研究環境の充実を図る。

アジア美術の研究に活用するため、これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理する。

- 市民等の文化芸術活動の発表

市民をはじめ、美術活動者の文化・芸術活動の発表の場としてこれまで定着している利用のニーズが高いスペースについて、引き続き、確保する。

## ○ Artist Cafe Fukuoka(ACF)(舞鶴)

舞鶴公園に位置するACFでは、アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場として、アーティスト・イン・レジデンス事業等の活動や支援を行います。

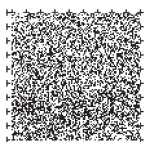
## 第2節 アクセシビリティ

アジア美術館は、年齢、言語、障がいの有無にかかわらず、また、国内外から訪れる人々、福岡に居住するアジア出身の人々にとっても、誰もが安心して美術館を利用できる環境を整備し、アクセシビリティ<sup>10</sup>の更なる向上に努めます。

### <アクセシビリティ向上に関するもの>

- 触覚等を活用した鑑賞が可能な作品の設置、および環境の整備。  
音声ガイドややさしい日本語でのガイド等、情報提供手段の整備・拡充。

<sup>10</sup> アクセシビリティ:利用者が目的の場所や情報、サービスに円滑に到達・利用しやすい程度をいいます。



### 第3節 拡充後のアジア美術館の活動

第3章で示した「アジア美術館の魅力向上の基本的な方針」の実現に向けて、本章第1節のアジア美術館の機能分担の考え方を踏まえ、拡充した後のアジア美術館においては下記の活動を行います。

- (1) 展示
- (2) 学び・体験
- (3) 調査研究
- (4) 収集保存
- (5) 美術交流(レジデンス)
- (6) にぎわい・集客
- (7) 市民の文化・芸術活動の場

#### (1) 展示

アジア美術館は、収集されたコレクションを市民に広く紹介し、アジア近現代美術への興味や親しみを増すような展示環境を整備します。

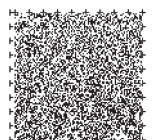
拡充先においては、アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保します。

現館においては、例えば、アジア近現代の美術作品の歴史的・文化的な背景にフォーカスした、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行うことを検討します。

また、関連図書やアーカイブ展示を通して、展覧会開催期間に限らず、いつでもアジア近現代美術に関する情報をひもとき、過去の展覧会等の内容を追体験できるよう、物理的に限定されない展示へのアクセス手段を検討します。

#### <コレクション展示に関するもの>

- 体系的に収集された作品を紹介できるストーリー性を有するコレクション展の開催。
- アジア現代美術の傑作を中心とし、アジア美術館の多様なコレクションを魅力的に発信するコレクション展の開催。
- コレクション展を通して所蔵作品に親しみを深める図解ガイド・音声ガイドの作成。



### <企画展示等に関するもの>

- アジア近現代作品の文化的な背景や調査研究の成果を踏まえた自主企画展の開催。
- アジアの各地域の美術の展開や動向、重要な作家など、アジアの近代美術史に光をあてる大小様々な規模の展覧会の開催。
- アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催。
- 民俗美術や大衆美術など、近代において美術の枠に含まれなかった領域を再評価する展覧会。
- 福岡市美術館など市内ミュージアムの所蔵品を活用した、多角的なアジア美術の展示。
- 他館や他組織等との連携・協力による共催展の開催。
- アーティストを招へいして実施するアーティスト・イン・レジデンスの成果を示す展覧会。

### <図書に関するもの>

- アジアの近現代美術を中心とする美術図書の閲覧サービスの提供。
- 展示に関連する図書・アーカイブ特集の実施。

## (2) 学び・体験

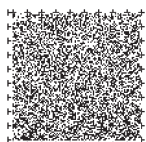
アジア美術館は、誰もが楽しみながらアジア美術を体験し、新たな視点や価値観に触れ、多文化や多様性について知る機会を提供します。作品鑑賞やワークショップ、レクチャー等、子ども・親子を対象としたものから、大人・高齢者を対象としたものまで様々なプログラムを実施します。また、障がいの有無にかかわらず、アジア美術を楽しむことができるプログラムを提供します。加えて、小・中学校、高校、大学等教育機関と連携し、アジア美術に関わる教材やプログラムの開発を行います。

### <来館者の体験に関するもの>

- 市民や観光で訪れた来街者がアジア美術との出会いを促す仕掛けづくり。
- 親子で気軽に参加できるワークショップやアジアの絵本や紙芝居の読み聞かせなど、幼少期からアジア美術に親しむためのプログラムの実施。
- 高齢者、障がい者の特性にあわせたプログラムの充実。
- 市内学校の児童・生徒を対象とする対話型アート鑑賞。
- 来館者が創作を体験できるワークショップの実施。

### <アジア美術を伝える人材育成に関するもの>

- スクールプログラム・職場体験の受入。
- 博物館実習・インターンの受入。



### (3) 調査研究

アジア美術館は、収集したコレクションにとどまらず、アジアにおけるアジア近現代美術の動向や新進作家の調査等を通して、アジア近現代美術と社会・人々との関わりについて新たな視点を提供します。

また、アジア美術の学術的評価の向上のため、収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備し研究環境の充実を図るとともに、アジア美術の研究者や学芸員の滞在研究を支援します。さらに、アジア美術の研究に活用するため、これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理します。

#### <調査・研究に関するもの>

- アジア近現代の美術に関する専門的な調査・研究。
- アジア美術の研究者や学芸員の招へいや、国内外の美術館との連携に基づくアジア近現代美術の調査・共同研究。
- アジア全域での新進作家の調査・情報収集。
- 所蔵品に関する目録・図録の作成。
- アジア美術に関するアーカイブの構築、活用、公開。

#### <調査・研究の還元に関するもの>

- 企画展示や講演会等による調査・研究成果の発信。
- アジア美術に関する研究紀要の創刊。
- アジア美術に関する学会誌や専門書籍等への執筆。

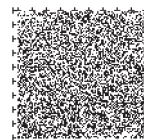
### (4) 収集保存

アジア美術館は、従来の「美術」の枠にとらわれない、アジア美術の独自性や固有の美意識を示す作品を収集し、新たなアジア美術の価値の創造を目指すとともに、良質なアジア近現代美術の作品資料を体系的に収集し、魅力あるコレクションを構築します。

また、収集したコレクションを継承するため、最新の保存科学の知見を取り入れながら、将来にわたってコレクションを安全に保存する環境を整備します。

#### <収集に関するもの>

- アジア近現代の美術作品の系統的な収集。
- アジアの同時代作家の傾向を伝える2000年代以降の作品の収集。



#### <保存に関するもの>

- 平面・立体などの作品の素材特性や材料に応じた適切な温湿度管理。
- 所蔵品の魅力を伝えるためのデジタル化。
- 所蔵品を次世代に継承するために適切な修復。

#### (5) 美術交流(レジデンス)

アジア美術館は、アジアからアーティストや研究者を招へいし、福岡での作品制作やワークショップ、パフォーマンス、調査研究、講演会などの活動を通して、市民との美術交流を実施します。こうした美術をきっかけとした交流を通じてアーティスト同士、またアーティストと市民、地域や内外の研究者や専門家との相互協力的なネットワークの広がりを作っていきます。

#### <招へい等に関するもの>

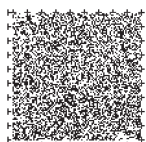
- アジアをはじめ、国内外で活躍するアーティストの招へい・受入。
- アジアの近現代美術研究者・専門家の招へい・受入。
- レジデンス事業の成果を示す展覧会や過去のレジデンスを振り返る展覧会の企画・開催。

#### <アーティストの成長と交流の支援に関するもの>

- アーティストの作品制作の支援、滞在成果を示す展覧会の開催。
- アーティストと市民との交流を促すイベントの企画・実施。
- 福岡におけるアートの新たな可能性を提示するイベントの開催。

#### (6) にぎわい・集客

アジア美術館は、展示機能と一体的ににぎわい・集客を図る取組みを展開することで、多様な来館動機を創出し、子どもから大人、国内外から訪れる人々、また福岡に居住するアジア出身の人々に、アジア美術との出会いの機会を提供します。また、国際的な人の往来や観光需要の高まりを捉え、国内外の来訪者を呼び込み、アジア美術の魅力、コレクションを世界に発信します。



#### <アジア美術を核とした人々の交流に関するもの>

- MICE<sup>11</sup>やインバウンド等、国内外の来訪者を呼び込む取組みの実施。
- 市内企業や教育機関等と協働したプログラムの開発・実施。
- アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施。
- 在福アジア人にとっても第三の居場所となるような場の提供。
- アジア美術との出会いを思い出として持ち帰り、興味を深めるきっかけとなるようなグッズの開発とミュージアムショップでの販売。

#### <展示・公開にとどまらない場の活用に関するもの>

- 多様な属性の来街者が立ち寄りやすい早朝・夜間開館。
- 1日を通して様々な過ごし方ができる場の提供。
- ユニークベニュー<sup>12</sup>として、様々なイベント等に活用できる空間の創出。

### (7) 市民の文化・芸術活動の場

美術館活動をサポートするボランティアを育成するほか、市民の文化・芸術活動の場を提供します。

#### <市民の活動支援に関するもの>

- 美術活動者の文化・芸術活動の発表の場の提供。
- アジア美術館の活動を支援するボランティアの養成。

<sup>11</sup> MICE(マイス)：企業などの会議(Meeting)、企業などが行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字をとったものです。

<sup>12</sup> ユニークベニュー：歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、本来の用途とは異なるニーズに応じて特別に会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場をいいます。

